犀潟駅

駅舎は、赤いカラートタン（現在は瓦屋根）でふかれ、窓にはサッシが入って一見近代的に見えますが、実はいずれも部分修理で、本体は木造で黒ずんだ柱が1本1本しっかりと立っています。
明治・大正・昭和・平成・令和の5代に渡る120年以上の長い歴史を刻みこんでいる新潟県内最古の駅舎です。犀潟駅の停車場は明治30年5月、松林に囲まれた犀浜の海岸近くに開業しました。
開業当時は閑静な農漁村の玄関口だった犀潟駅は戦後、工業地帯の輸送という大きな役割を果たすようになりましたが、現在は使われていません。
平成9年3月開業したほくほく線により、犀潟駅は信越線の接点として重要な役割を担っています。

明治30年と記載された銘板

新堀川

潟川下流の地域は江戸時代から、たび重なる水害に襲われ苦しめられてきました。
宝暦6（1756）年、村人の 代表が決死の覚悟で江戸へ願い出、新堀川を作るための資金を借り受けました。約48,000人もの村人が工事に加わり、長さ1500m 幅17mの新堀川が完成しましたが、その年の大雨で岸が崩れ落ちてしまいました。高田藩から改めて新堀川の工事を許されるまでの80年の間、とても貧しく苦しい生活に耐えざるを得ませんでした。
それ以降も日本海の強い風や波のために砂がたまって、塞がれてしまいがちな新堀川を人々は命がけで守り、各時代の中で工事を繰り返しました。
平成元年、ついに河口の排砂ポンプ場、潟川と新堀川の合流点に作られた潮止め水門、数か所にできた揚水ポンプなどの完成により、大潟の水との戦いはようやく終わりました。
新堀川の近くには潟守神社があり、そばに大潟開発の記念碑が建てられています。

2. 諏訪神社

犀潟町内会館のとなりにある諏訪神社は、明治42(1909)年に近隣の12神社が合祀された神社です。
社殿は昭和48年(1973)年に建立されました。
春の桜並木がみごとです。

3. 雪穴跡

昔、行商の魚の鮮度を保つために利用した雪穴の跡です。
深く掘った穴に冬に積もった雪を、高さ7mほどに固め入れ、藁で覆った室を貯蔵庫としていました。

4. 古宮台場跡

寛政4(1792)年、ロシア船が蝦夷地に来航したことを受け、江戸幕府が沿海の大名に沿岸防備を命じました。古宮台場は、高田藩が築いた22か所の台場のうちのひとつです。

6. 円蔵寺

ここの地名が行野浜と呼ばれたのは、この寺で修行する信者が多かったことからと伝えられています。
有名な木喰上人が作った仏像2体が安置されています。

7. 白山様

昔、村人が浜に打ち上げられているお地蔵さんを見つけ、"白山様"と呼びおまつりしました。
"白山様"には虫歯の痛みや病気を治してくれるお力があり、村人はお祈りすることで助けられていました。

8. 新堀川排砂揚水機場

大潟新田の悪水を日本海へ放流する際に堆積する砂を取り除くために設置されました。
新堀川の開鑿に着手以来140年余を経て、湿地帯での耕作の苦しみや塩害の苦しみから逃れる事ができました。

9. 大潟漁港

昔の大潟海岸は砂浜が広くゆったりした風景でした。
ところが長年の浸食により、砂浜は削られ、昭和57(1982)年に漁港の建設が始まり、平成17年に利用されるようになりました。

10. 専念寺

大潟区の海岸は弘徳池の浜といわれ、親鸞が教化した所として真宗門徒の間で全国的に有名です。
親鸞の門弟西仏房の法系の寺であると言われ、道路沿いに「見真大師(親鸞)の碑」が建立されています。

11. 潟守神社

新堀川開削完成後、新堀川両岸に潟守新田を設置し、同時に潟守新田外水利関係24か村の守護神として祀られました。昭和27(1952)年奥の宮を合併しました。

12. 明治天皇御小休所

明治天皇が、大潟区を明治11(1878)年9月に巡幸されました。現在の犀潟で休憩され潟町行在所で昼食をおとりになりました。